

前立腺癌に効果の期待されるサプリメントも、5回目となりました。

今回は、柑橘フラボノイドについてです。

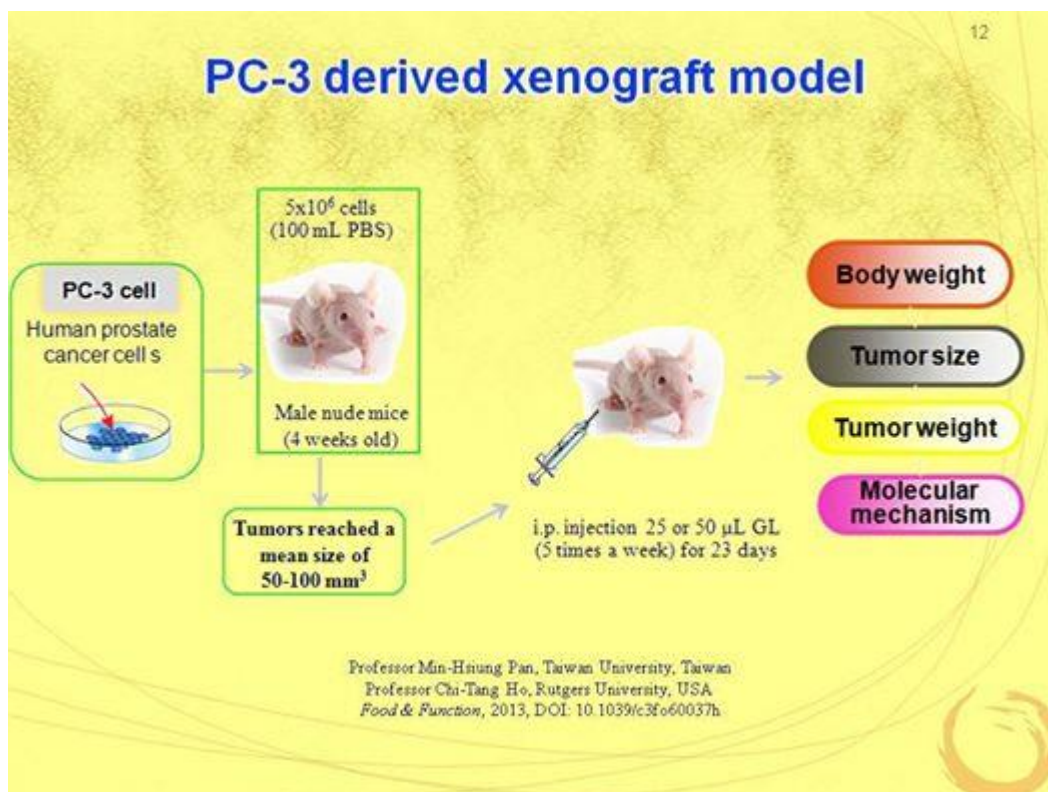
フラボノイドは、緑茶カテキンと同様、ポリフェノールの仲間です。

このコラムの4月に記載した、ゴールドローション(GL)の再登場です。

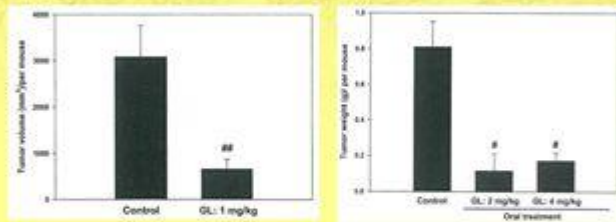
メキシフラボノイドを主成分とし、①抗炎症 ②抗発癌 ③抗酸化 ④抗血栓 ⑤抗動脈硬化などの広域な生物活性作用を有しています。さらに抗酸化作用が強い、ヘスペリジンなども沢山配合されているので、抗がん作用も強く有していると考えられます。マウスを用いたヒト前立腺癌細胞(PC3)の移植実験で、GLの皮下投与ならびに経口投与で、著明な腫瘍の増殖抑制効果を示しました(図参照)。

現在、使用されている抗がん剤で、タキソール、イリノテカン、ビンブラスチン、エトポシドなどは、植物由来の成分を精製して、抗がん剤として利用しています。このGLのように、あえて単一成分に精製しないほうが、効果のある薬剤の副作用を一緒に含有している成分が打ち消している場合も考えられ、単一でないことが副作用を出にくくしている可能性があります。

表はGLを製造している、ミヤウチ柑橘研究所のデータを改変したものです。一番下の症例は、当院で経験した症例です。高齢でほっておくと癌が進行するかもしれないけど、強い治療は嫌だなあ…というような人には、試してみる価値ありそうです。



## Results



腫瘍の増殖抑制（腹腔内投与） 腫瘍の増殖抑制（経口投与）

アンドロゲン非依存性癌では、経口で効果を示す

## 前立腺がんに対するGL使用

開始年	年齢	飲用 歴	内服量 (CC)	開始 時PSA	PSAの 最低 値	他の併用治療
2004	80	1年	10	278	1	LH-RH
2005	67	2年	15	24.4	13.3	LH-RH (併用後13.3⇒0.03)
2008	66	6年	10	0.3	0.03	小線源治療後
2012	70	2年	10~30	0.2	0.05	daVinci術後
2013	69	1.5年	30	16.1	10.5	他のサプリメント
2014	71	4ヶ月	15	10.1	6.9	なし

(ミヤウチ柑橘研究所のデータを改編)